

会場概要

「エンジョイスペース大名」とは...

オーナーの緒方徳重氏(68歳)が、戦禍を免れた築130年以上経過した生家を、街並み保存や賑わい創出の観点から開放し、個性を自由に発表する場として平成7年から幅広い層に貸出している場所。

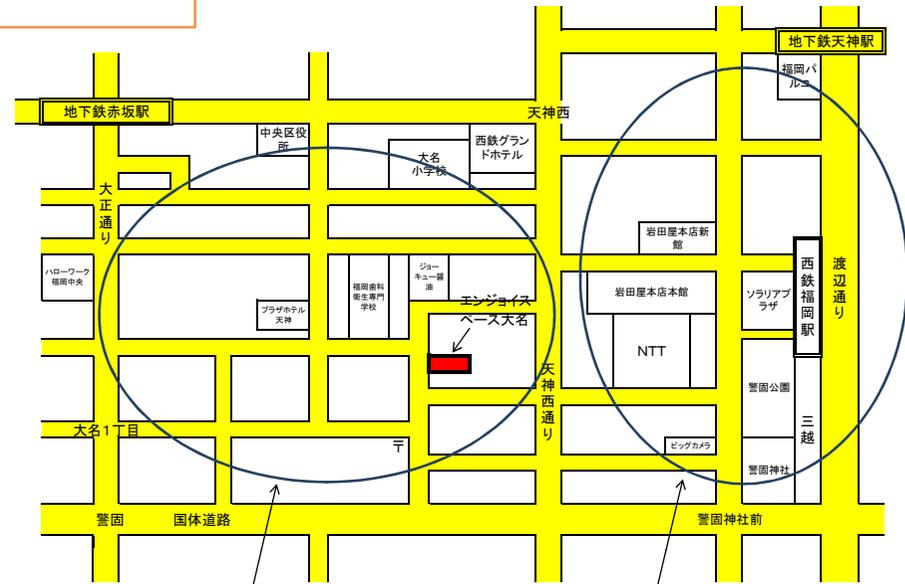
個展、ワークショップ、音楽、演劇など多岐にわたる催しが年間50程度(通算600回程度)開催されている。

施設は、路地(紺屋町通り)に面した平家建ての町屋形式の建物で、会場の広さは間口4m、会場奥行は10mほど。

【これまでに開催された展示会など】

- ・博多織、風呂敷、久留米絨、陶芸など工芸品の展示販売会
- ・絵画、写真、人形、レコードジャケットなどアート系展示会
- ・ライブ、演劇、その他イベント

※直近では、KBC九州朝日放送の深夜番組「ドオーモ」の番組企画として「オンナTVリアルショップ」が開催されている。H24.6.23~7.1までの1週間、番組企画と連動したセレクトショップを開催しており、会場となるエンジョイスペース大名や周辺の様子などが番組内で度々とりあげられている。



大名エリア

天神エリア(西側)

大名エリアについて

大分県福岡事務所、エンジョイスペース大名による、大名地区に関する情報です。

- ・九州随一の商業エリアである天神地区に隣接する大名地区は、かつては福岡藩の城下町であった場所。入り組んだ路地はその名残である。戦禍を免れたため、古くからの建物が点在し、デパートや大型商業施設などの高層ビルが建ち並ぶ天神地区とは一線を画し、低層建物を中心となっている。
- ・近年、独特の雑然とした雰囲気を持つ大名エリアの街並みの魅力も相まって、多くのブランドショップやセレクトショップ、飲食店等が軒を連ねており、福岡中心部のみならず、九州一円から多くの人を集める情報発信拠点である。
- ・周辺のショップ、飲食店の開店は午前11時前後。昼過ぎ頃は買い物客、夕方からは飲食店に来るサラリーマン層が多くなる。土日は8割程度が福岡市外からと見られ、大名地区だけを目当てに訪れる人も多い。
- ・若者が多い印象のある大名地区だが、古くからの住民も多く、大名地区を訪れる年代層は幅広い。震災以降は外国人客も増加している。
- ・大名地区には「こだわり」、「個性」を求めて来る人が多く、いいものであればある程度高価でも納得、というのが全体の雰囲気。
- ・大名地区の周辺である薬院・警固・今泉地区などは、雑貨、ギャラリー、カフェ、インテリアショップなどライフスタイルに関わる店舗が多い。



↑外観



他のイベントの様子→

